



平成28年10月15日発行

～□修□の予定(追加)～

10.26	今後の高P血症の治療～保存期から透析期～ 会場 グランパルティいわき 開催時間 19:00～20:30
11.17	第128回いわき漢方懇話会学術講演会 会場 LATOV 6F 開催時間 18:30～20:30



### ●各種お知らせ

#### ・スチューデント・シティの「地域活動」認定について

平成28年度調剤報酬改定において新たに設定された「かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料」の施設基準のうち「地域活動」について情報提供します。

スチューデント・シティ事業については当初「地域活動」として認められておりましたが、東北厚生局と本省との個別やり取りの中で出された本省の見解では、この事業は経済活動の学習で医療介護に係るとは判断できない。との回答が6月6日付けであったとのことであります。このことから、この事業は「地域活動」として認められないようです。

詳しい内容については厚生局にお問い合わせください。



#### 妥結率の報告について

妥結率については、報告年度の4月1日から9月30日までの妥結率の実績を同年10月31日までに地方厚生(支)局へ報告することとされております。

なお、期限までに報告がない場合には、「妥結率が低い保険薬局」とみなされますのでご注意ください。



#### 麻薬受払等届について

9月30日は、麻薬及び向精神薬取締法第47条、第48条及び第49条の規定に基づく平成28年分(平成27年10月1日～平成28年9月30日)の麻薬受払状況の取りまとめの日です。いわき市保健所から送付された「麻薬受払等届」に記入し、期限日までに提出してください。

提出先 **いわき市保健所 総務課医事薬事係**  
 〒973-8408 いわき市内郷高坂町四方木田191番地  
 提出物 「麻薬受払等届」2部  
 3部作成し、内2部提出、残り1部は薬局で保管する  
 提出期限 **平成28年11月30日(水)**

皆さんの住んでいる地域をキレイにしませんか?

#### 薬剤師会一斉清掃を行います!♪

□参加希望の方は11月12日までにFAXで薬剤師会事務局まで送信して下さい。 \*参加者には後日FAXで詳細を送ります。  
【日時】:平成28年11月20日(日)9:00～11:00 【場所】:いわき駅前 【内容】:駅前のゴミ拾い(ゴミ袋は用意します)



----- 切り取らないで、そのままFAXしてください -----

【返信先】いわき市薬剤師会事務局 FAX(0246)46-0431

薬局名(事務所)名	FAX番号も記入して下さい	参加者氏名

### 「熊本地震の災害派遣を終えて」



アイル薬局住吉店 赤津雅美

平成28年4月14日夜、突然、九州熊本地区を震度7の地震が襲いました。翌々日16日深夜には再び震度7の内陸直下型の本震、火の国熊本は壊滅的な打撃を受けてしまいました。それは歴史的建造物で熊本市民のシンボルである「熊本城」も例外ではなく、崩れてしまった城壁や石垣は市民の精神的なダメージもかなりのものだったそうです。そんな中、発災から約2週間後、日本薬剤師会スキームの中、福島県薬剤師会の災害医療の人材派遣が期間を別にして3回(3班)行われました。自分は①4/28～5/2は南阿蘇へ、②5/6～5/10は益城町へ派遣され、医療支援に携わりました。支援の内容は、モバイルファーマシー(調剤用移動車)での災害処方せんの調剤、避難所滞在者へ症状などを確認後のOTC薬の提供、大小避難所への保健師さんと連携しての巡回訪問、避難所の足洗い場の消毒液の調整などでした。また被災した地区の住民への医療救護所の存在や医療チーム巡回などの広報活動なども行いました。

5年前には支援を受ける側だった私たち福島県のチームは、①が南阿蘇地域というアクセス道路が制限されてしまった山間部の村で発災10日ぐらいたったため、それなりの準備と心構えをして現地へ向かいました。しかし熊本地震においては、直下型で被害が局限していたこと、津波の被害がなかったことで高速道路や鉄道、新幹線などのインフラの回復が早く、薬を含む食品などの流通は正常に戻っていた。5年前のいわき状況の想像をしていた自分にはかなりの驚きでした。②の益城町は熊本中心部から十数キロと近いためか派遣で入った発災3週間経過の時期には、避難所や駐車場内に車中泊をしていた方の多くはそこから市内へ通勤してしていないため、平日は救護所での医療のニーズが少ないので、保健婦さんしかいない小さい避難所を巡回して薬の相談を実施していました。

今回の熊本派遣での我々薬剤師の災害時のニーズは、その災害の特徴、時期、地域性など様々な要素で変わりました。調剤、OTC、健康相談からのトリアージ、行政や他職種との連携などなどの対応力も必要になっていました。現地と一緒に支援したチームの中では、南海トラフの被害を想定している県薬、市薬、それに過去に大きな被害を受けた地域では災害対策の意識レベルはかなり高いと感じました。おとなり茨城県では、昨年の豪雨被害から四師会(医師、歯科医師、薬剤師、看護師)で行政と協定を取り付けて定期的に災害想定の手合訓練をしているとのこと。いわき市薬も5年前の教訓から市と協定が結ばれていますので、訓練や災害時対応などの検証が必要であると思いました。